

股関節は下肢における近位端に位置し、その主な機能は体重支持と運動である。そのため多くの場合、股関節を含む下肢すべての関節は、足部が地面に接した閉鎖連鎖時に機能する。閉鎖連鎖では、直接的に関与する分節運動に伴い、他の分節の運動が引き起こされる。股関節の位置や周囲筋は、骨盤に対する大腿骨の運動より、体幹の位置や運動によって制御される。

股関節にはさまざまな機能が求められる。立ったりしゃがんだりする動作で最も中枢に位置する股関節は、下肢において最も可動性のある関節である。しかし、歩く、跳ぶといった動作における動的活動や片脚立位の際に、頭部-腕-体幹（HAT）や対側下肢の重量を支持する十分な安定性も有している。特有の骨格構造とその周囲の軟部組織によって、可動性と安定性といった相反する機能を股関節は兼ね備えている。股関節に関する3つの章の目的を以下に記す。

- 可動性と安定性の両者を産生する股関節の構造を明確にすること
- 股関節を運動させるのと同時に、より上方に位置する頭部-腕-体幹（HAT）の重量を支える筋について考察すること
- 股関節や隣接する骨格構造に不利益となる負荷や、障害のある機能を生じさせる構造的変化を検討すること



Round Flat